

次号予告

特集 エネルギーミックスとOR

太陽光発電とエネルギーマネジメント分野への気象技術の活用 大竹秀明 (産業技術総合研究所)
再生可能エネルギー電力取引のための気象予測誤差デリバティブ 山田雄二・松本拓史 (筑波大学)
発電機起動停止計画モデルを用いた電力システム運用の経済性・環境性の評価手法
. 池上貴志・馬渡栄嘉 (東京農工大学)
エネルギー機器の最適運転計画とモデリング 所 健一 (電力中央研究所)
機械学習のための数理計画モデル—大規模施設における適応的空調制御—
. 榊原一紀 (富山県立大学), 大原 誠・長廣 剛・玉置 久 (神戸大学)
災害拠点病院を対象とした災害時事業継続性向上のための分散型電源機器導入量の最適化
. 上道 茜 (東京農工大学), 山崎由大 (東京大学), 金子成彦 (早稲田大学)

メーリングリストに登録しよう

会員の方は、本学会のメーリングリストに登録すると、学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナー等の催し物に関する最新情報が得られます。登録方法については、<http://www.osrj.or.jp/members/mlhowto.html>をご覧ください。

編集後記

●OR学会企業事例交流会では、企業でのOR実施例をORの適用事例という形で春季と秋季開催の研究発表会で企業の方々に発表していただいている。今回の特集号では、企業や行政の幅広い領域において、ORの果す役割は大きいことが紹介されている。

●ORの起源は、今から60年ほど前の第2次世界大戦中にさかのぼる。米英国の工学者、経営学者、心理学者らが協力して、軍事戦略上の問題を解決するための技法を研究したのが始まりと言われている。そこで使われた言葉が、「OR」であることはよく知られている。戦後になると、ORは軍事戦略だけでなく、企業において経営やさまざまな現場での問題解決技法としても採用されるようになった。

●軍事戦略も経営戦略も、従来は人間の「勘」によって意思決定される世界だった。ORの意義のひとつは、勘に頼っていたそれらの問題を数学的にモデル化して

解決することにあると言われている。

●毎年、年末になると大学では、学生達は卒業論文・修士論文作成に追われている。我が研究室では企業との共同研究や委託研究を行う機会が多いため、学生達は、社会で必要としている諸問題の発見をするところから研究がスタートする。そのため現場に足を運び、現場の声を聞き、その問題に応え、研究成果をフィードバックし試してもらえよう意見交換を多く行っている。企業の中には、制約があり、なかなか事例を紹介していただけないところも多々ある。しかし本特集号のように企業の方々さまざまな事例を紹介して下さることは、学生達への研究の活力にもなり研究の意義を感じ取れる貴重な機会にもつながる。企業の方々にはより多くの事例を今後も紹介してほしいと思う。
(朝日弓未)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 繁野 麻衣子 (筑波大学)
特集担当編集委員 猿渡 康文 (筑波大学)
委員 朝日 弓未 (東海大学), 伊豆永 洋一 (神奈川大学), 井床 利生 (IBM基礎研究所), 井家 敦 (神奈川工科大学), 鶴飼 孝盛 (防衛大学校), 大竹 恒平 (東海大学), 加藤 怜 (公益財団法人鉄道総合技術研究所), 小林 隆史 (立正大学), 佐久間 大 (防衛大学校), 笹谷 俊徳 (東京ガス株式会社), 猿渡 康文 (筑波大学), 高野 祐一 (筑波大学), 生田目 崇 (中央大学), 蓮池 隆 (早稲田大学), 原田 耕平 (株式会社NTTデータ数理システム), 山本 零 (慶應義塾大学), 吉田 琢史 (株式会社東芝)

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

令和元年12月号 第64巻 第12号 通巻708号

代表者 齊藤 裕

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.osrj.or.jp/>

編集人 繁野 麻衣子

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

- ・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。
- ・本誌への広告のお申込みは、明報社 (Tel 03-3546-1337) へ。